

**倉吉市定住自立圏共生ビジョン懇談会（第3回） 会議録**  
**産業振興・地産地消部会**

- 1 開催日時 平成22年11月26日（金）14時55分～17時
- 2 開催場所 倉吉市成徳公民館視聴覚室（1階）
- 3 出席状況
  - （1） 委員 出席者5名（山脇部会長、谷本副部会長、上本委員、岸本委員、遠藤委員）  
欠席者2名（岩崎委員、高塚委員）
  - （2） 事務局 3名
- 4 目的 次に掲げる事項を検討、確認するために懇談会を開催したもの。
  - （1） 産業振興・地産地消部会（第2回）の会議のまとめ及び産業振興・地産地消分野におけるSWOT分析の結果について
  - （2） 圏域の課題と可能性の検討及び整理並びに圏域における将来像の方向性の検討について
  - （3） 定住自立圏構想の推進に必要な手続きについて
  - （4） 第4回懇談会（全体会）のスケジュールについて
- 5 次第
  - （1） 開会
  - （2） あいさつ
  - （3） 報告事項
    - ア 産業振興・地産地消部会（第2回）の会議のまとめについて
    - イ 産業振興・地産地消分野におけるSWOT分析の結果について
  - （4） 検討事項
    - ア 圏域の課題と可能性の検討及び整理について
    - イ 圏域における将来像の方向性の検討について
  - （5） その他
    - ア 定住自立圏構想の推進に必要な手続きについて
    - イ 第4回懇談会（全体会）のスケジュールについて
  - （6） 閉会
- 6 資料 別添資料のとおり
- 7 結果 本日の会議の結果、次のとおり報告及び検討を行った。
  - （1） 産業振興・地産地消部会（第2回）の会議のまとめ及び産業振興・地産地消分野におけるSWOT分析の結果について

第2回懇談会（部会）で意見交換した内容を整理した資料に基づき、前回の部会の検討結果を報告し、確認し合った。また、部会の検討と併せて事務局側で実施したSWOT分析の結果を報告し、圏域の強み、弱みなどを確認し合った。

- (2) 圏域の課題と可能性の検討及び整理並びに圏域における将来像の方向性の検討について  
上記(1)の確認内容を踏まえ、圏域の各分野の課題を抽出し、圏域の可能性を整理した資料に基づき、圏域の課題と可能性を検討した。また、圏域の現状、課題と可能性等を踏まえ、圏域の将来像の考え方を整理した資料に基づき、圏域の将来像の方向性を検討した。
- (3) 定住自立圏構想の推進に必要な手続きについて  
資料に基づき、第1回懇談会（全体会）で説明した定住自立圏構想の手続きの流れと現在の定住自立圏形成協定の協定項目について再度説明し、確認し合った。
- (4) 第4回懇談会（全体会）のスケジュールについて  
次のとおり日程調整を行った。  
平成22年12月27日（月）14時～16時 倉吉市役所大会議室（本庁舎3階）

## 8 会議内容（要旨） 以下のとおり

---

### 会議内容（要旨）

#### 1 開会

##### ○ 事務局

これから、倉吉市定住自立圏共生ビジョン懇談会の第3回部会として、産業振興・地産地消部会を開会させていただきます。それでは、始めに山脇部会長から御挨拶をお願いします。

#### 2 挨拶

##### ○ 山脇部会長

本日は、大変寒い中、お集まりいただきましてありがとうございます。前回、話がありましたとおり、中部圏域の弱み・強みをまとめていただいて、それに基づいて方向性を出していきます。これは、課題解決のための可能性を探ることだと思います。よろしくお願いします。

#### 3 報告事項

- (1) 産業振興・地産地消部会（第2回）の会議のまとめについて
- (2) 産業振興・地産地消分野におけるSWOT分析の結果について

##### ○ 事務局

まずは、前回の懇談会の報告ということで、次第3の報告事項に入ります。

前回の懇談会の中では、中部圏域の現状を話させていただき、委員の皆様方から産業振興・地産地消の分野で特に充足しているもの、不足しているものを含めて、自由に御意見をいた

いただきました。その結果をまとめたものが、こちらの表になります。

産業振興と地産地消という大きな括りの中で、まとめておりまして、概要を言いますと、豊富な地域資源があることが「充足していること（強み）」となっています。また、産業振興の面では、例えば、ドバイの太陽など世界的にブランド化を進めていること、それから既存の企業等で行われている取組み、特にJAでは、8店舗の中で10億円以上の売り上げがあるといったことがあります。

農業に関しては、主幹産業ではありますが、もっと儲かる農業の仕組み作りをしていかなければいけないという意見や、一次加工ができない体制にあるとの御意見もありました。観光についても資源等はあるが、今後、観光客の動線を伸ばすのか、都市圏からどのように呼び込んでいくのか、広域的にどのように取り組むのかということも、御意見がありました。

また、不足しているものということで、特に、地場産業の落ち込みがあり、若い人が働ける環境が少なくなっているということ、後継者の不足、情報発信が弱いという御意見が産業振興の括りの中でありました。それから、地産地消の面で言いますと、観光との連携、特に最近修学旅行の中で、圏域内のそういった取組みを見学されて帰っていくという意見もありました。また、地産地消と言いますか、いろんな圏域外との取引があるということ、また、行政の方では、食育が進められているといったところが強みという意見もあったかと思えます。

地産地消の大きな問題としては、特に、弱みの部分で、一次加工ができないということで、中部圏域だけで消費ができない構造が一つの壁になっています。また、学校給食での自給率が低いといった御意見もありました。このあたりを地産地消で不足しているもの、弱みとして位置付けています。

次に、資料2でSWOT分析による圏域の課題と可能性の整理について説明します。この資料につきましては、充足しているもの、足りていないものに関する皆様の意見を踏まえ、更に文献資料等から中部圏域の強み・弱みを整理し、圏域の中で改善していくもの、今後伸ばしていくものに繋げるため、まとめた資料となっています。

表にSWOTの分析の用語解説をつけています。要は、社会の動向やニーズである外部要因の機会・脅威の部分と、内部要因である強み・弱みに区分し、現状を整理させていただいたものと御認識いただければと思います。

次のページの産業振興・地産地消のSWOT分析の中身をご覧ください。各分野で、強み・弱み、また機会・脅威として書かせていただいています。

産業振興の強みといたしましては、先ほども言いました地域資源が豊富にあること、歴史名所が多いことがあります。特に調べますと、文化財指定数が県内でかなり多い位置付けになっています。それから、琴浦町や北栄町、倉吉市、湯利浜町は農業産出額、耕地面積率が県内の中では上位にあります。倉吉市におきましては、事業者数、従業者数が県内で2位の位置付けになっています。就業率では、特に町の女性の就業率が高くなっています。また、農業や製造業のほか、医療・福祉産業などの特色ある産業において従事者が多いことも、産業構造を強みとして出させております。

社会動向のニーズ（機会）で見ますと、いろんな観光に関する社会のニーズやスローライフ、ブランド化などは各自治体で推進されているところです。脅威ということでの社会動向

としては、景気が悪いことや、安・近・短型の観光への転換が大きくあると思います。

そのような中で、産業振興としてはどうなのかということ、今後は豊富な地域資源や農産物を活用しながら、産業振興に活かしていくことが一つあります。観光にしてもネットワーク化を促進していくことで、人が足を運んでいただけるような形にもっていけるのではないかと思います。

地産地消につきましても、強みということで、地場グルメに取り組んでいることであったり、地域食材が豊かに備わっている部分であったり、食育を進められていたり、そのあたりを強みとして挙げています。

地産地消の弱みとしては、中部圏域の中で消費する構造ができていないこと、消費者への浸透が薄いこと、農産物の多様化、学校での地産地消ができていないことなどを挙げております。

機会という社会動向で捉えますと、安全・安心への志向や、食生活を規則正しくしていこうという動きもあります。脅威としては、国内自給率の低迷や食生活の乱れ、販売網のネット化など、地産地消を取り巻く環境はおおよそこういったところでまとめられると思います。

これらを踏まえ、伸ばしていくところとしては、農産物のブランド化、地場グルメをPRする機会や場の確保など、豊富な資源を活かしていくこと。また、地産地消という分野だけでやるのではなくて、観光等の他分野との連携を進めながら、取り組んでいくことが必要だと思います。

このようなところから可能性の要素を書いておりますが、中部圏域は、やはり独自の地域資源が豊富にあること、あくまで割合ですが、女性を含めて就業率が高いことや、農業・製造業はもちろん、医療・福祉産業分野での就業者数も高いなどの産業構造の特殊性があることなどが、産業振興の一つの可能性ではないかと思います。こうした面を伸ばしていくことが、交流、元気・活力に繋がる要素ではないかということでもまとめさせていただきました。

以上の部分が、前回の意見をまとめた報告と、文献等を調べた中で分析・整理させていただいた部分になります。

それでは、今、御説明した内容、資料について、何か御意見、御質問等はありませんか。

○ 上本委員

資料1の儲かる農業の項目で、「農業だけでは食べていけない」とありますが、食べている人の方が多いわけで、こういう表現は、直しておいてほしいと思います。

○ 事務局

修正します。

○ 上本委員

それから、資料1の学校での地産地消のところで、「給食の単価が安い」というのは、単価自体が安いのではなくて、今の倉吉の小学生や中学生の給食単価が妥当なのか、どうなのかということがあって、安い・高いという基準では言えないのではないのでしょうか。安いからいいのか、単価が合わないのかは分かりませんが、表現の仕方を考えた方が良いでしょう。もし、仮に見られたときに、良い思いをしない人もいると思うので。安いのか、高いのかはよく分からないけども、ぎりぎりの線だろうと思います。

○ 事務局

表現は改めておきます。

○ 遠藤委員

資料1の学校での地産地消のところで、「学校給食での自給率が50%程度と低い」とありますが、1市4町のそれぞれのデータがありますか。

○ 事務局

ここはデータが取れていません。意見としてあったので出させていただきました。

担当課の方は、正確に把握できていないと言っていました。40~50%位かなとのことでしたが。

○ 岸本委員

計算の仕方もあると思います。

○ 上本委員

主要何品目とかで計算の仕方もあるのだと思います。だから、正確には分からないと思います。

○ 岸本委員

最終的には分からないと思いますが、鳥取県は、知事が60%を目指していますので、伸びてはきているようですが。全国で7位くらいだったと思います。また、新しいデータがあるのかもしれないですが。

○ 遠藤委員

1市4町で数値に違いがあるのであれば、その辺りは参考数値になるかと思いますが。

○ 岸本委員

(地産地消の)システムで、地元の本当に泥つきの野菜を入れられるところは、(自給率の)割合が高くなっていってしまう。

○ 遠藤委員

そしたら、センターみたいな形でやっている倉吉市などは、どうしても自給率が低い傾向になりますか。

○ 岸本委員

倉吉市は(給食を)確か4,000食くらい出されていると思いますので。そうすると、やはり、芋の皮から剥いてなどいられないみたいな状況があると思います。そういう仕組みとかの違いもあります。だから山間部というか、小さい地域のところの方が自給率は高くなる傾向があります。

参考資料については、文科省に参考になる数値があると思いますので、また見ていただければと思います。

○ 事務局

分かりました。農林の担当課の方は、どっちかという、きちんとした数字を把握できていないので、圏域全体の地産地消の推進のための計画を作るにあたって、生産物がどういうルートを通して、どこで消費されているのか、というような基礎調査を1市4町で行って、実態をきちんと把握しないといけないのではと考えているようです。滋賀県の彦根市でもそのような実態があって、今年度中に調査を全体的にされるようなので、そういう事例や情報も見ながら検討をしていくことになるかと思っています。

○ 谷本副部長

データはなかなか難しい面があります。どこに標準を当ててやるのかとか。自給率というのは、要は地元の産物が給食に使われているのか、使われていないのか、それだけだったら大体分かると思いますが。ですから、大事なものは、予算の面もあると思いますが、地元の産物を使うんだという方針を立てることで、そうすれば自給率が上がると思います。そういう大きなところからきっちりやるかどうかだと思います。弱みのところでもありましたが、一番の根本は行動力がないことだと思います。やはり行動力をつけていかないといけない。自給率の問題でもデータをとるのは大切ですが、データよりも、地元の産物を使った給食を子どもたちに食べさせるんだという方針を決めてやることだと思います。農産物の販売でも、資料にもありましたが、農協では8店舗で10億円以上という売り上げをあげているわけですから。この前も言わせてもらいましたが、これを買っているのは地元の人です。普通だったら考えられないと思います。ですから、地元の人でもこれだけの数が農協の直売所について買っているわけですから、今度は、これを圏域外のお客さんに照準を合わせてやっていけば、きっと良くなると思います。

○ 事務局

岸本さん、県の目標はどの位ですか。

○ 岸本委員

鳥取県の目標ですね。平均50%位で、これを60%に持っていこうということみたいです。

○ 事務局

それは、学校給食だけではなくて、全体ですか。

○ 岸本委員

給食だけになります。なかなか、家庭の自給率を見るのは難しいと思います。まずは、学校の自給率からだと思います。

○ 山脇部会長

産業振興のところで、第一次産業とか、第三次産業は観光が載っていますが、二次産業、特に、製造業や建設業のウェイトは売り上げでいくと大きいと思います。それで、こういうビジョンをつくと必ず企業誘致ということが出てきますが、言葉だけではいいのだけれども、企業誘致は実際に何社来たかという非常に少ないと思う。企業としても、恐らく労働力が確保できるとか、資源が活用できるとか、何か有利なことがないと移ってこない。今、どこの市町村でも、地方では雇用の問題があり、企業誘致が言われますが、ほとんど誘致は難しい状況になっていると思います。だから、一番大事なのは、今ある事業所をどう応援していくかだと思います。地元でいくら頑張っても、経済や景気に関しては、外部環境の影響が大きいと思います。やっぱり今ある企業を応援してあげるのは大事です。そういうところが少し欠けている気がします。

○ 事務局

今の御意見は、SWOT分析の資料2の「内部の要因の弱み」のところで、地場産業の落ち込みがあるので、改善していくものとして、地場産業の育成、支援強化が必要ではないかということよろしいでしょうか。今は、改善していくものに企業誘致等の産業の活性化という文言がありますので、ここにプラスして地場産業の育成というようなことを追加すると

いうことでよろしいでしょうか。

○ 山脇部会長

地場産業の育成を入れてもらえればと思います。

○ 事務局

資料1の「豊富な地域資源の農産物・水産物で日本一の市場がつくれる」のところで、農産物は分かりますが、水産物は中部圏域ではどうかと思います。表記としてどうでしょうか。

○ 谷本副部会長

赤碕や泊等の水揚げ量がよく分からないですが、水揚げ場があるのだから、それを含めての意見だったと思います。

○ 遠藤委員

私は、泊の漁協の準組合員として。確かに段々と落ち込んでいますが、ただ、中には昔に流行った泊の牡蠣があります。例えば、料理の鉄人で使われたりしたことがありました。そういう特化したものはありますが、それが上手にブランド化に繋がっていないようです。資源としてはありますが。また、例えば、東郷池だとシジミを出していて、生産量・売上額は港よりあるらしいです。

○ 谷本副部会長

石脇のひらめの養殖はどうですか。

○ 遠藤委員

ひらめの養殖は、個人でやっていてあまり生産量は大きくないようです。放流するのが殆どのもので、放流と稚魚を業者に売っているようです。今は、岩牡蠣は有名みたいですが、なかなか上手に発信できていないようですね。

○ 谷本副部会長

今、島根県の海士町が牡蠣でIターンの人がいるなど、話題性がありますよね。しかし、私は牡蠣の味では負けたいと思います。

○ 遠藤委員

今度、泊でも、新しいブランドわかめを作ります。収穫をかなり早めて、柔らかい時の小さなわかめを、漁協とかと組んでやっていきます。それをしゃぶしゃぶで食べられるように商品化するなどを考えていますが、それらを何とか上手にブランド化していかないといけないと思っています。

○ 谷本副部会長

そういうものを大きく売る場所というのが、絶対に必要だと思います。

○ 遠藤委員

やっぱりブランド化というのは、理想としてはそうですけども、具体的にどうしたら良いのかというところが、やっぱり一番大変なところだと思います。

○ 谷本副部会長

私は、地産地消という点でも、やはり中心となる市場を作って、どんどん来てもらって、それを利用した商品やそれ以外のものも含めて、例えば、グルメの屋台村を作って、それで売っていくようにするべきだと思います。

高知県にひろめ市場というのがあります。高知の人がいろんなものを持ち寄ってそこで

売っています。そこは、250 万人も来るそうです。ですから、それで 250 万人ですから、この地域の農産物、生産物を販売する市場を作って、やっていけば絶対に負けないと思います。ひろめ市場は、古い体育館か、何かの施設を利用していたと思います。確かに魅力がありますが、ただども、中部でやれば負けはしませんよ。

○ 遠藤委員

もう一つだけ、伸ばしていくものの中に I T を活用するというのを入れた方がいいと思います。

○ 事務局

情報の部会でも、情報網の利活用を伸ばしていくという文言がありますので、その関連でよろしいですか。

○ 遠藤委員

はい。

○ 事務局

それでは、この資料 1、資料 2 というのは表現の部分の修正と地場産業の育成の部分などをもう一度修正させていただきまして、整理をしておきたいと思います。

#### 4 検討事項

(1) 圏域の課題と可能性の検討及び整理について

(2) 圏域における将来像の方向性の検討について

○ 事務局

次の議題に入りたいと思います。圏域の課題と可能性の検討及び整理、将来像について説明させていただきます。

資料 3 の第 2 章の圏域の課題と可能性をご覧ください。

まず圏域の課題ということで、一番始めの項目群に人口による傾向からの大きな課題等を示しています。圏域の総人口は特に減少傾向にある中で、このままで推移すれば少子高齢化の進行とともに、地域活力の一層の低下が懸念されるということ。また、全国的な人口減少社会の到来に対して、子どもや女性を含め多くの人々が活躍できる活動の場、機会の創出に努めることが必要になっているということ。そして、今後の流出人口を抑制するためには、まずは住みよさ・暮らし良さを向上させる取り組みを充実させて、魅力ある圏域づくりを進めて、圏域外、国内外からも人を呼び込むことが重要ではないかとしています。

「2. 活力・元気を生み出す産業分野に関する課題」の部分について。特に、農業を取り巻く環境が非常に不安定な中で、いかに後継者不足や就業者の高齢化を改善していくか、また耕作放棄地が増加し、経営耕地面積も減少している中で、ますます生産性の低下を招くのではないかの懸念があります。また、豊富な農産物、水産物がある一方で、一次加工等がなかなかされにくいという中部圏域独特の課題もありました。観光面では、積極的な広域観光の振興が必要になっています。

地産地消は「3. 賑わいを生み出す結びつきやネットワーク分野に関連する課題」の上の方に記載しております。特に、圏域内での自給率を高めること、地産地消そのものができていないことが課題ではないかということで挙げています。

「4. 地域づくりを担う人材育成に関連する課題」では、全体的に関連がある部分となります。行政の体制として、職員の数が限られる中で、様々な業務を兼務でこなしていかなければならず、一方で、住民の方のライフスタイルやニーズが多様化しており、職員の方の専門知識や技術の習得が求められている状況です。

また、ボランティアが活発である圏域ではありますが、その反面、分野によっては連携して一体的に動けていないという課題があります。

それから、全国的に財政難のため、財源が縮小される中で、公的支援だけでは住民生活の質を維持していくのが困難になってきています。そのため、協働や共生などの視点から市民参画を推進し、行政、住民、企業、学校、NPO法人等の地域関係者が明確な役割を持って、まちづくりを進めていくことが重要になってきています。

以上、課題ということで、各分野の代表的なところを改めて整理させていただきました。

次に、圏域の可能性について説明いたします。全部で6つの項目があります。

「1. 美しい自然環境が整った魅力的かつ豊富な地域資源が存在する圏域」ということで、各部会の意見や統計的資料に基づいた中で、代表的な自然が各市町にあり、この美しい恵まれた緑の環境は、圏域の最大の魅力と考えられます。また、そういった風土から、メロン、梨、スイカなど農産物や、和牛、乳牛などを含めた県内でも有数の特産物が生み出されています。その他にも、文化財の指定件数が、県内で上位となっており、非常に多くの歴史・伝統物、文化資源、名所などが存在しています。いずれにしても、こうした豊かな地域資源を有効に活用することが、魅力の向上に繋がるものと思います。

「3. 人とモノの交流を生み出すツーリズム要素の多い圏域」につきまして、多種多様な歴史、伝統文化を併せ持つ倉吉市、県内でも有数の温泉資源がある三朝町、ロハスを推進しスローライフを感じることでできる湯利浜町、乳牛やラーメンでの独自の地場グルメを生み出している琴浦町、環境への取り組みや、漫画によるオリジナルなまちづくりを推進する北栄町。中部圏域の中では、各市町が持つ独自の観光施設及び豊富な観光資源が点在しています。また、各市町それぞれに豊かな自然や農産物などの資源が豊富にあり、訪れたいくなる要素(ツーリズムに繋がる要素)が備わっている圏域であると言えます。これによっていろんな分野とも結びつけることで、圏域内外から足を運ぶ機会が大きく広がります。

「4. 圏域を支える産業基盤と特色のある産業構造をもった圏域」につきまして、地場産業の低迷傾向はありますが、特に各町で就業率が全国平均を上回っており、県内でも比較的高く、特に女性の就業率が非常に高いものになっています。それから、倉吉市は人口千人当たりの事業所数、従業者数、商店数が県内でも高い方となっています。こういった状況が産業を支えているということ。それから、従業者数の内訳をみると、農業、製造業などの分野で多いのですが、特に医療・福祉業に従事するものも多い状況でした。こうしたことから中部圏域では医療・福祉産業というのが、圏内の一大産業にもなっていると思います。当然、主幹産業の農業や、他の既存の産業を大事にしながら、新規産業の誘致・育成を図ることで、就業環境づくりを進められるのではないかと思います。

「6. 『中部は一つ』という連携意識の高い圏域」につきまして、本圏域の中では各市町間の移動が30分以内のできる範囲であること。そして、昔から中部は一つと強い連携意識をもって、いろんな広域的な取り組みを進めているということ。また、「ボランティア活動」の

行動率では、鳥取県が全国1位と高い水準にあります。その中でも、中部圏域はボランティア活動やNPO活動が盛んだという声を聞いています。そういった特色でもある絆を大切に作る温かい気風を持った土地柄・気質こそ、人と人を結び付け、定住を促進するのに欠かせない要素ということで、連携や絆を大事にする要素を挙げています。

以上が圏域の課題と可能性になります。

今のところで、何かご意見はありますか。

○ 遠藤委員

先ほども部会長からありましたが、第二次産業や第三次産業などについて、もう少し触れる必要があるかと思えます。地方では、建設業の公共事業への依存度がかなり高くなっています。それがこのように景気が悪くなっていて、それをどうやっていくかを考えないといけないと思えます。その辺と実態把握とその課題について、もう少し記載する必要があるんじゃないかと思えます。

○ 事務局

はい、分かりました。

○ 上本委員

ちょっと確認ですけれども、これは、この懇談会はどこまでをする会になりますか。部会は現状認識までをするのですか。

○ 事務局

この懇談会の目的としては、今、現状認識から課題・可能性までできましたけれども、将来像まで検討していくことになります。

○ 上本委員

具体的な取り組みは検討しないのですか。

○ 山脇部会長

これはビジョンづくりだからなので、アクションプランとか、具体的な事業までの検討は無いと思えます。この定住自立圏ビジョンでは、具体的な個別事業については、それぞれの市町が協定を結んで、その中で具体的な事業は出てくるものと認識しています。では、具体的に何をするのかというのはありますが。

○ 上本委員

ここの倉吉市で、職場からここに来る間でも、この地域は、下着一枚も変えない状況になって、瀕死の状況です。どんどん郊外化して、市街地は空洞化しています。なんでこうなったのかと思えます。この原因はなんだったのかと思うと、いわゆる自己改革がなかった。口が悪いんだけど、結局、行政は、競争がないから、甘いところがここまで来させてしまったと思えます。だから、民間に支援だとかではなく、先頭に立って、例えば交流事業を確立させるのであれば、市長杯でも何でもやると。中部にはアクセスも資源もありますが、そこまでやっていくぞというものを作らないと、いつまでもビジョンのまま終わってしまいます。

具体的に、もう一歩先に。ビジョンの先が問題です。

本当にこんなじゃ無駄なお金になってしまう。ちょっときつい言い方ですが、だからこそ、これから先をどういうところまでするのか、というビジョンづくりまでもっていかないといけないと思えます。



についてです。どういう圏域をめざすのかということと、もう一つが③定住自立圏形成協定に基づき推進する具体的取組になります。この懇談会では将来像までを検討していただきますが、将来像が記載された後ろの章に、協定に基づいた具体的に何をやるのかという取組内容が記載されます。ただ、本日意見をいただいているように、懇談会で出た意見や課題をどうするのかということですが、これを今すぐに具体的な取組の中身に入れることができるかという、一旦、2の協定の部分まで戻らないといけません。先ほど話した地場産業の育成を例で言うと、協定の内容を変更して、各町と倉吉市と一緒にやりますと約束してから、またビジョンの段階に戻ってこないといけないということになっています。

ただ、いただいた意見や課題については、そのままにせず、今回のビジョンの最後のところに「今後、検討しないといけない課題」として載せていきます。そういうところをきちんと文章化させていただいて、1市4町で共有化します。その課題については、単市で行うもの、単町で行うもの、市と町で連携して行うものと、確認していきながら、合意形成ができたら、2番の協定に戻るような流れになります。ただ、具体的な取組は、随時修正ができることになっていますが、将来像だけは毎年変更することはおかしいかなと思いますので、今回皆さんに御意見をいただいて、中部圏域はどの方向に向かうのかを検討して進めたいと思っています。

○ 谷本副部長

今まで、そのような進め方をやっても、できてきませんでした。人口は減るし、活気はない。やはりどこかで変えないといけません。良い方向に、できる方向に、活性化できる方向に。ビジョンの中に具体的なことを入れればいいのではないですか。

もう一つ質問したいです。ビジョンの策定が終わったら、誰が実行ですか。誰がこれを具体化して、事業化して進めていくのですか。

○ 事務局

協定は市が中心になって、個別の取組については、1市4町の行政が行います。

○ 谷本副部長

それは分かりますが、行政がやるというのは、市の職員がされるのですか。

○ 事務局

市の職員がやることもあります。それから、連合がやることもあります。資料4の次のページの「中部圏域の定住自立圏形成協定について」を見ていただきたいのですが、1市4町で結んでいる具体的なものがあります。例えば、地域公共交通をみると、さきほどありました下着を買うのに街にいかなければならないということもあるので、1市4町でバス路線の再編などの交通計画を策定中です。いかに効率よく住民の皆さんの利便を高めようかという1市4町での計画を作っているところです。それから、産業振興の分野では、広域観光振興として、梨の花温泉郷に対する支援の充実も記載しております。これは広域連合が行いまして、1市4町はそれに対して、協力関係を結んで進行を図っていかうとしています。実施主体は、1市4町がそれぞれと結んでいたり、連合と関わってきたり、NPOが関わってきたり、いろんなやり方があります。

○ 谷本副部長

いままでも、そういうやり方でやってきて、うまくいっていないわけですね。だから、

活気ある中部圏域にすることが目的なので、今より雇用が増えて、働く場所ができて、人口が増えて、そういう目的に向かってやっていかないと。

○ 事務局

そのために、まずは、今回のビジョンで1市4町の共通の将来像を描いて、それに向かって近づいていこうということです。

○ 谷本副部長

こういうものがしっかりとしないことには、ビジョンだけで終わってしまいます。やはり、ビジョンの中に具体化したものをちゃんと入れていく必要があります。そうしたら、その後の人もやりやすいでしょう。

○ 山脇部会長

この部会で審議するのは、ビジョンづくりで、おおまかな部分ということですね。だから、人口を増やすためにどのような施策を行っていくかは、この部会ではなかなかでてこない。大枠のビジョンづくりまでして、これに基づいて具体的な事業を決めていくということですね。

○ 事務局

もう1度言いますと、2番目の協定の中で連携する具体的な事項というのを決めて、文章化して、議決をとりなさいという手続きが先にあります。本来ならば、この具体的な事項を決める段階が3番目のこの策定段階であるべきと考えます。皆さんの意見を聞いて課題が出てきて、具体的な取り組みを検討しながら、ビジョンに入れましょうという形になるべきです。しかし、現在の手続きは、具体的な事項を2番目の協定の段階で決めなさいということになっています。

○ 山脇部会長

では、具体的な取り組みは、決まっているわけですか。

○ 事務局

はい。そうですが、随時変更してもいいですよとなっています。従って、手続きとして、一旦、この懇談会の場を開くためには、まずは協定を結ばないといけなかったということがあったので、初めに行政側だけで必要最低限の項目を出して、それによって協定を結び、今の段階に来ることができたということです。今の協定は別紙のとおりですが、例えばこれに、今回の懇談会で出てきた課題に対して取り組もうと思えば、市と取り組みに同意する町との間で合意形成を図り、各市町の議会の議決を経て、現在の協定を変更することになります。

○ 遠藤委員

言葉の意味としてですが、資料4のところ、「定住自立圏形成協定に基づき推進する具体的な取り組み」に「具体的な取り組み」と書いてありますが、例えば、括弧書きの梨の花温泉郷に対する支援の充実というのが具体的ということですか。

○ 事務局

具体的に「どういうことをします」ということが入ります。

○ 遠藤委員

とくにかく必要なものが出てくれば、もう一回盛り上げて、次の協定のときにそのような意見を入れていくということですか。

○ 事務局

そうです。例えば、他の部会では輪番制の問題も出てきています。しかし、医療分野は現在協定していません。しかし、これは急ぐ課題だと思いますので、できる限り早い段階で協定の変更を行う必要があると感じています。地場産業のことも同様です。その課題をビジョンの中に形として残さないとすぐ忘れられてしまいます。今回は取組みとしては入れられませんが、最後にそれぞれの分野で出てきた課題ということで、今後、優先順位を決めて、一個ずつ潰していく形をとらせていただきたい、そういう課題管理をしていきたいと思っています。

○ 遠藤委員

でも、次に変更して入ってくるというのが見えないと、話をする意味がなくなってしまいます。そのスピードはできるだけ速い方がいいと思います。

○ 谷本副部長

協定の中にあるものだったら良くて、協定にまだ出ていないものは、協定を一つずつしていくということで、手続きが違ってくるわけですか。

○ 事務局

そうです。ビジョンというのは随時修正ができますので、例えば、6月、9月12月の議会を待たなくても、随時、必要な時に変えればよいとなっています。その際には、懇談会の意見を聞いて、その後に、市と町が協議行い、ビジョンの策定という形になります。

一旦、今日の会議は、将来像のところまでですが、第4回の懇談会では、具体的なところも含めて、皆さんに一回お示しできると思います。その時に、こういう取組みだけでは足りない、若しくはこういうのが必要ではないかというのが、ビジョンの将来像から具体的取組みを一貫して見た時に、恐らく見えると思います。それでまた、具体的な詳細の分は意見をいただいて、次の工程はあるにせよ、見直しにはしっかり反映できるように、まとめさせていただきたいと考えております。ただ、意見があったというのではなくて、それが反映されるようにまとめさせてもらえれば、意義あるようにならないかなと思います。

○ 谷本副部長

我々は、何か役に立ちたいと思って参加していますので、ただ意見を言っただけで、後はどうなるか分かりませんでは、やっぱり意味がないですから。中部の定住自立圏というものが、本当に良いものになって、全国見てもこんなところはないというくらいのことにならないと、役に立った気にならないと思います。だけでも、それくらいになるというのを決めて、そこに向かうようになっていけば、おのずと良い方向に向かうのではないかなと思います。

○ 上本委員

ただ、経済も5年の間、3年の間も含めて変わってくると思います。あくまでも、机上のプランとしては、きちっとして総務省が納得できるような書き方をしていればそれでいいことなので、どうやって具体化していくかが大事なことだと思います。

○ 事務局

貴重な御意見ありがとうございます。今までの意見を踏まえて、定住自立圏構想というか、住みやすいまちになっていくように努力していきますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

○ 遠藤委員

やっぱり、建設業がなくなると雇用もなくなると言います。建設業では不動産を多くあちらこちらに持っています。そういったところが、遊休化してしまうところもあると思います。その辺のところ、かなり中部はウェイトが大きいと思います。その辺りも課題として捉えておかないと中部は大変かなと思います。

○ 事務局

はい、分かりました。御意見ありがとうございます。

それでは、次に「圏域の将来像の方向性」について説明します。こちらは考え方として御理解いただければと思います。定住自立圏を考えた時に、無理なもの、無いものを探すのではなく、現在あるものを最大限に活かして魅力を高めていくべきではないかと思います。そのため、資源と機能の再認識と有効活用というところでポイントを置いています。目指すべき方向性としては、先ほど可能性にも挙げさせていただきましたが、強い連携意識の中で、中部圏域がしっかりと連携し、質の高い暮らしやすさが感じられる定住に繋げていくことが必要ではないかという点と、観光資源や交流拠点など、ポテンシャルの高い地域資源を相互に連携・活用することで、圏域単位での「魅力」を創出することが必要ではないかという点の2つを目指すべき方向性として挙げています。

また、定住圏域に必要なものとして、『守りの機能』と『攻めの機能』があると言われていきます。守りの機能は、日常生活圏域内で住んでいる人々の暮らしや生命を守る取り組みです。医療、介護、教育、交通網の整備などの機能になります。それから、『攻めの機能』は、どちらかと言うと圏域外への取り組みです。全圏域的な魅力創出活動や経済的活動を促す取り組みである観光資源や歴史、伝統文化の活用、それから地域資源の情報発信、雇用の創出、産業の活性化などを併せ持つこととなります。まずは、守りの機能によって、いわゆる住み良さ暮らし良さを高めることで人口流出を防止して、それから攻めの機能をもって魅力を高めることで、いろんな交流や、外からの人を呼び寄せることをしていこうということです。

次の6ページの表に、中部定住自立圏の取り組みの狙いをまとめています。内部の住民と外部の住民への影響と、関連する施策分野として整理しています。こちらで言うと、まずは内部の住民の方に、住んでいて良かったと感じてもらうことが重要だと思います。関連する施策としては、主に医療・福祉・住民参加となります。この時点で、外部の人は中部圏域を知っている程度です。次に、内部の住民には、中部圏域の中で楽しんでもらい、友達も呼ぼうと思ってもらい。外部の人は中部圏域に行こうと思ってもらい、訪問をするきっかけをつくるということで、情報・交流・観光の施策分野としています。次に内部の住民には、中部圏域の生活もなかなか良い、と対外的にいえるようになってもらい、外の方は中部圏域の生活もなるほど良いなと思ってもらい。関連する施策としては公共交通・地産地消・情報になるかと思います。次に内部の方が、他の地域よりも中部圏域で暮らそうと感じてもらい、外の方は、中部圏域に住んでも良いなと思ってもらいということで、環境・教育・移住の面などの施策を充実させます。最終的には、インフラ整備によって都市機能を強めて、産業振興として、中部で働く、中部圏域の雇用を確保し、定住に結びつけることが重要ではないかと思います。このように、まずは住んでいる方の暮らし良さを高める必要があると思います。そして、中部圏域の生活の価値観を圏域外に広め、移住促進を図り、人口流入を図ります。

生活の価値観とは何かというと、「豊かさ」になると思います。健やかにいきいきと暮らせること、ゆとりをもって快適に暮らせること、安全・安心に暮らせることなどです。そのような、豊かさという部分が中部圏域の価値観として、活かせるような形で進めていければと思います。

そのような将来像の考え方を踏まえまして、柱を5つあげています。これは先ほどの可能性を踏まえた形となっています。1つは、「美しい自然環境、多彩な地域資源を活かしたまちづくり」です。2つ目に「安心・安全が確保された住み良いまちづくり」。3つ目に「活力・元気を創出する魅力あるまちづくり」。4つ目に「人やモノ、情報の流れを促し、結びつきを強めるまちづくり」。5つ目に「地域づくりを担う人を育成するまちづくり」。これらを今後進めるべき5つ柱として挙げています。

最終的には、将来像を表すキャッチフレーズで、中部圏域の将来像をまとめていきたいと思っています。今、各分野から安心・安全や豊かさ、元気、活力などキーワードや特性が出てきていますので、この辺りのキーワードを整理しながら、キャッチフレーズにしていきたいと考えています。

最後に参考として、「他圏域の将来像を示すキャッチフレーズ」をつけています。全国的に定住自立圏ビジョンの策定が進んでいる中で、将来像を表すキャッチコピーが示されているところをまとめたものです。最終は、中部圏域も特徴を活かしたキャッチコピーを作っていたらと思っています。

この将来像までは、今後ほぼ変わることはない部分になります。この後に記載される具体的な取組みは、追加・修正できる部分になります。一番大事なのは、今後の検討課題の部分だと思いますが、ここは第5回の懇談会でお示ししようかと思っています。今後、こういうことを継続して、検討して、実行に繋げる形で出していきたいと思っていますので、よろしくお願いします。

○ 谷本副部長

協定といったことは関係なくて、懇談会としての将来像の柱ということで、美しい自然環境多彩な地域資源を活かしたまちづくりをしていくには、具体的にどのようなことをやるのかと、活力・元気を創出する魅力あるまちづくりは、具体的にはどのようなことをやって、魅力あるまちにするというようなものを出したいわけです。

そのものが協定の部分に入るか入らないかは、その次の話で、協定している部分であれば入れればいいし、全く協定していない部分だったらそこからスタートするだけだと思います。

○ 事務局

そうですね。一回そのような形で、整理させていただいて、そこが分かるようにやってみますので、恐らくそこで、もう一回議論になると思いますので、これは入っている、これは入っていないけど絶対今後いるというように、分かりやすくしてみます。

今後、どういった取り組みが必要なのかという部分も、前回の部会の報告の内容や、SWOT分析の中から、ある程度抽出していく形になるのかなと思います。もう15分ほどお時間がありますので、具体的に必要だと思われるようなこと、また、言い忘れていたと思うところがあれば、その辺りを教えていただけたらと思います。

例えば、医療部会であれば、結構具体的に出てきています。課題を抽出する部分で、実際

平日の夜間に急患ではない患者を診療する病院がないため、全ての患者が救急病院に集中してしまっていて、救急病院の負担が増えているという問題がでてきています。そういった具体的な課題でいただいた方が、今後の検討課題としても分かりやすく整理していけるのかなと思います。

○ 谷本副部長

最初からずっと言っていますが、農産物の市場を絶対にやった方がいいと思います。中部全域が良い方向に向かうわけですから、その場所にB級グルメの屋台村があるといいと思います。

それと今、異常気象で農産物がものすごく不安定になってきていると思います。異常気象に影響されない農業ということで、LED光農法が多摩川大学が中心になって、具体化されて大工場ができています。これを誘致すると、異常気象に影響されない農業ができます。工場として農業をやっていくという方向が良いと思います。

後は、ベンチャー企業の企業誘致ということで、先に企業誘致はなかなか大変だという意見もありましたが、安い土地があるわけですから、工業用地を準備して、それは無料とする。全国も企業誘致をしているわけですから、そこに勝とうと思ったら何か魅力がないことにはきてくれません。けども、工場を立てるときは、中部の建設業者を使ってくださいという感じで、ベンチャー企業を誘致していきます。

それともう一つ、シャッター商店街の活性化ということで、店主がこだわりのものを売っていく、こだわりの商店の商店街づくり。これは商売の原点だと思います。そういう店を一件ずつ作っていく。この都市でやりたい人がいたら、どんどん来てもらう。空き屋があっても痛むばかりですから、安い値段で貸してあげてくださいと話をつけながら、そういうこだわりの品物売るような店を一件ずつ作っていく。そういう商店街ができてくると、ものすごく楽しいと思います。

私が具体的にこういうものをやったら良いと思うものは以上になります。

○ 事務局

ありがとうございます。

○ 遠藤委員

農業、漁港、加工品をつくっている方、製造業、北栄町のコナンなどが中部にあります、ああいうのも北栄町に限らず、中部で使う。それぞれミックスした商品開発ができます。旬のものを合わせていくとか、そこにコナンが入ってくるとか、そのような基礎の団体の枠を超えたような商品づくりができればいいと思います。

○ 岸本委員

少し外れますが、資料1で私達が言ったことは、前向きに新しくやっていくことだと思いますが、もっともっと暮らし良いというテーマで考えると、もしかしたら足りていない、拾えていない部分があるのではないかと思います。日常生活に最低必要なものが、中心街でも揃えられない、あるいは郡部の奥の方の方も交通の便が悪くて、豊かな生活とまでいっていないなど、拾えていない感じがしています。ですので、調査というものを盛り込めないかどうか。そういうもっと具体的な声を拾うようなことをできないですか。

○ 事務局

生活実態調査みたいなものですか。

○ 岸本委員

そうですね。

○ 上本委員

地域格差が大きすぎた。限界集落のところは中山間地域にも多くなってきていると思います。三朝町の奥にしたって、同じです。僕らの住んでいるところでも、一人暮らしのお年寄りが増えてきています。

そういうことを考えて、どっちがいいかは一長一短ですぐには決められないけれど、その辺をもう少し地についた政策というのをできないかなと思います。大きな目標はいいけれども、具体的なものを出すのは大事なかなと思います。

○ 岸本委員

両方やっていかないといけないと思います。

少し交通部会のところに入ってしまいますが、中山間地の問題があります。バスなんかは、路線を組み替えても、補助しないとすぐにお金が出て行ってしまっています。バスに一人乗って遠くまで走らせるとかになってしまうので、人口がこれ以上増えないということであれば、バス会社に考えてもらって、オンデマンドのようなものを導入していった方がいいのかということを見ると、やっぱり大きなビジョンにつながっていくと思います。いずれにしても、少し拾えていない感じが私はしました。

○ 事務局

今のような話は特に医療のところでは話が出ています。

結局、医療を受けるために公共交通を使わないといけないけれど、路線というのが足りない部分もあって、通院したいけどできないという方がいる。逆にこっちから行くシステム、つまり在宅医療の充実。こういうものは、検討課題として載せないといけないと思っています。

○ 岸本委員

後ろに野菜を積んで売りにいくとか、できませんかね。

○ 事務局

最近、国の方の政策もそのような移動販売者に支援するような話を聞きました。

○ 遠藤委員

経済産業省が買い物弱者に対する支援をやっているようですね。

○ 上本委員

でもそれを受けた企業は大変ですよ。大赤字になると思います。人件費もでない。とてもじゃないけどできない。昔にあったけれど自然とやめていったものだから。気持ちは分かるけれども、経済的に成り立たないと思います。

○ 山脇部会長

商店街の衰退と前から言われてきて、ちょっと言いたいことがあります。高齢化社会が進んでくると、車で移動できない方が商店街の中にも多くなっていく。その人たちがそこでいかに生活をしやすいかにかかってくるかだと思います。それと各村々にも車で通えない人が出てきて、そういう人たちが住み良い生活を求めてくるというようなことがだんだん起きてく

るのではないかと思います。今は、段々郊外に出ていっています。若い人はいいけれども、高齢者は買い物もできない。農家の人も生活していけないようになってきます。後継者もできません。商店街の人も、自然と空き店舗が増えてきて、観光客が出てきたけれども、ただ観光客だけでは到底食べていけません。今の人数では。そうすると、圏内の人も買ってもらい、観光客も買ってもらい、というスタイルじゃないと食べていけないと思います。

○ 事務局

ありがとうございます。今日はこれで閉めさせていただいてもよろしいでしょうか。今日いただいた意見をまとめまして、次回の懇談会で報告させていただきたいと思います。また、よろしくをお願いします。

5 その他

○ 山脇部会長

私事ですけれども、12月末で商工会議所を退職することになりました。次回は別の者が、委員推薦という形でくると思いますけれども、よろしくをお願いします。

○ 事務局

第4回の懇談会の日程は、12月27日（月）14時から倉吉市役所大会議室で開催しますので、よろしくをお願いします。

6 閉会

○ 事務局

本日は以上になります。ありがとうございました。